

- 3 監督や選手のみなさんから話を聞いたり質問したりする。
 (1) 東京オリンピック・パラリンピックに向けての話
 (2) 夢や志を持って生活することの大切さについての話
 (3) 子供たちに伝えたいことの話



4 終わりの会

- (1) 感想発表
 (2) お礼の言葉
 (3) 宮城マックスのみなさんから
 (4) 終わりの挨拶



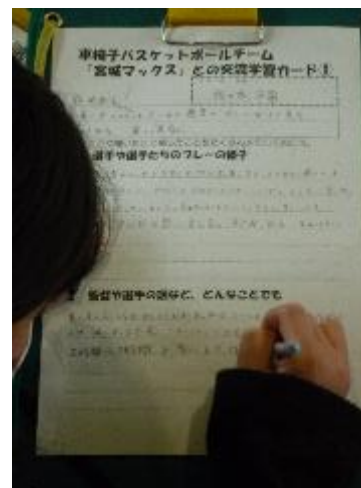
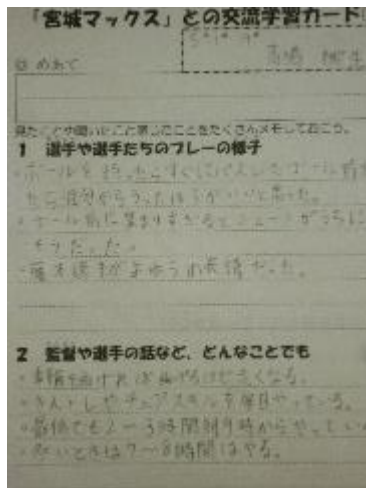
5 事後指導

- (1) 学年ごと学習カードを活用し、活動を振り返る。
 (2) お礼の手紙や作文を書く。

6 主な成果

- 活動を通して、児童からは次のような感想が寄せられた。

- ・今まであまり知らなかった車いすバスケットボールをこの機会にすることができて良かった。
- ・自分のやりたいことを見つけることが大切だと感じた。
- ・体のどこかに障害があってもスポーツができることに誇りを持っていることがすばらしいと感じた。
- ・車いすバスケットへの印象が変わりました。「障害を持っていることに対して不幸ではない。」という言葉が印象に残った。
- ・何のためらいもなく義足を外し、足を見せるのには驚きました。それはとても勇気のいることだと思いました。バスケットの面でも人として尊敬できる人でした。
- ・車いすバスケットのよさが伝わった。藤本選手に憧れた。パラリンピックを見たりして応援したい。また、色々なパラリンピック競技を体験してみたいです。



<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な学習の時間の単元である「人権福祉」に位置付け、児童の学びとなるよう工夫する。 ○ パラリンピックについて、図書資料やインターネットを活用し調べ、学習に対する課題意識を持たせるよう工夫する。 ○ 障害者スポーツの視点ではなく、アスリートという視点で学習が展開できるよう工夫する。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「人権福祉」の観点のみから学習を展開するのではなく、スポーツやアスリートの観点で学習を進めていく必要がある。 ○ 夢や志の視点を大切にしたい指導計画の工夫が必要である。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 非常に有意義な取組となった。年間計画に位置付け、継続した取組を図りたい。